

令和6年度 事後評価シート

【事務事業シート】

1	当初	事項	環境教育推進事業費						予算主管課	義務教育課	
	事業概要	産業廃棄物の排出抑制と減量化、資源の循環的な利用についての理解を深めるため、研究指定校を指定し、研究実践を行う。							始期	2008	
									終期		
	K P I	環境教育研究推進校のうち、環境に対する意識が高まった児童生徒の割合									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	95 %	目標値	95 %	目標値	95 %	目標値	95 %
		実績値	%	実績値	94.5 %	実績値	93.2 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	99.47 %	達成率	98.1 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	1,006 千円	最終現計 予算額	1,007 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	1,006 千円	決算額	1,007 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	<p><b>要因</b> 研究推進校として、研究実践を継続して行ったことで、環境について学習することは大切であると回答した児童生徒が97.2%いるものの、学習内容や取組内容を自分の日常生活とつなげて考える機会が十分でなかった可能性があり、目標達成には至らなかった。</p> <p><b>総括</b></p>									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は、目標値に1.8ポイント及ばなかったものの、環境教育への意識は高く、本事業を継続することにより、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

2	当初	事項	科学の甲子園ジュニア県代表選考事業費						予算主管課	義務教育課	
	事業概要	中学生が科学を学ぶ楽しさ・意義を実感できる場を提供し、理数教育の充実を図る。							始期	2013	
									終期		
	K P I	大会後の参加者アンケートにおける「科学技術に関する学習意欲」の肯定率									
		KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
			R 4 年度	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %
		実績値	%	実績値	93.5 %	実績値	93.75 %	実績値	%	実績値	%
		ストック/フロー	フロー	達成率	108.85 %	達成率	109.1 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	1,079 千円	最終現計 予算額	1,097 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	678 千円	決算額	638 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年度	要因分析	<p><b>要因</b></p> <p><b>総括</b></p>									
	見直し方向性	維持	6年度のKPIの実績は、極めて高い成果が出ており、7年度以降も現在のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

3	当初	事項	愛ある愛媛の道徳教育推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を推進するため、実践研究を行う。								始期	2009
										終期	
	K P I	「道徳」の時間がためになると思っている児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	68 %	目標値	68 %	目標値	68 %	目標値	68 %
		実績値	%	実績値	60.2 %	実績値	64.3 %	実績値	%	実績値	%
		ストップ/フロー	フロー	達成率	88.53 %	達成率	94.6 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	7,285 千円	最終現計 予算額	7,073 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	5,790 千円	決算額	5,970 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要因分析	<p><b>要因</b>            研究推進校（指定2年目）の取組に係る好事例を、県内小中学校の道徳教育推進教師が参加する研究発表会で公開したり、実践の概要をまとめたブックレットを配付したりしたほか、教職員を対象とした研修会の充実等を図ったことが奏効し、目標値には届かなかったものの、昨年度よりK P I が向上した可能性がある。</p> <p><b>総括</b></p>									
	見直し方向性	維持	KPIの実績は目標値を下回ったものの、R5と比して上昇傾向にあり、本事業を継続し、事業内容の一層の充実を図ることにより、KPIは更に目標値に近づくと考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。								

4	当初	事項	情操教育推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	知性と感性の調和がとれた発達を目指し、心身ともに健全な児童生徒を育成するため、各種事業を実施する。								始期	1967
										終期	
	K P I	「とても有意義な事業であり十分満足していた」と回答した児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	78 %	実績値	82.6 %	実績値	%	実績値	%
		ストップ/フロー	フロー	達成率	78 %	達成率	82.6 %	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計 予算額	936 千円	最終現計 予算額	913 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	
			決算額	598 千円	決算額	868 千円	決算額	千円	決算額	千円	
6 年 度	要因分析	<p><b>要因</b>            事業への満足度について、「十分満足」「満足」と肯定的な回答は99%と概ね良好だったものの、児童生徒の音楽活動の経験や興味関心に個人差があることから、目標達成には至らなかった可能性がある。</p> <p><b>総括</b></p>									
	見直し方向性	改善	6年度の目標達成率が概ね好調であったことを踏まえ、現行の実施内容等を維持しつつ、開催時期や開催内容について、更に工夫・改善を図っていく。（R7年度執行に反映）								

5	当初	事項	えひめ情報リテラシー向上事業費							予算主管課	義務教育課	
	事業概要	児童生徒が主体的に情報等を選択・活用する能力を育成するため、小中学校を対象とした学習用アプリを活用し、定期的に更新する。							始期			
6	年度	K P I	ネットトラブルにあっていない児童生徒の割合									
			KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
				R 4 年度	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %
			実績値	89.4 %	実績値	88.5 %	実績値	85.3 %	実績値	%	実績値	%
			ストック/フロー	フロー	達成率	94.45 %	達成率	91 %	達成率	%	達成率	%
	コスト	最終見積 予算額	3,234 千円	最終見積 予算額	3,234 千円	最終見積 予算額	千円	最終見積 予算額	千円			
		決算額	3,234 千円	決算額	3,234 千円	決算額	千円	決算額	千円			
	要因分析	<p><b>要因</b> 現在、ほとんどの児童生徒がインターネットを利用できる自分専用の機器を所持しており、1日当たりの平均利用時間は、昨年度と比べ長時間化している。想定以上に利用頻度が高まっていることに加え、利用目的も多岐にわたっているため、トラブルに遭う機会が増加したことが、目標達成に至らなかった要因と考えられる。</p> <p><b>総括</b> 小・中学生を対象に情報リテラシーの育成に資する体験的アプリ等を活用し、授業等において児童生徒が当事者意識をもって学習に取り組むことで、情報活用能力の確実な定着を図ることができた。 今後、新技術を適切に扱う実践力とネットトラブルへの対応力等を、発達の段階に応じて全ての児童生徒に早急に育成するために、多種多様なネットトラブルを疑似体験できるアプリを開発し、情報社会に参画する態度や自律的な行動規範の育成を図るアプリ等を開発する。 なお、令和7年度より、新技術を適切に扱う実践力とネットトラブルへの対応力等を児童生徒に早急に育成するため、えひめデジタル・シティズンシップ育成事業を立ち上げた。</p>										
	見直し方向性											

6	当初	事項	英語コミュニケーション能力強化事業費							予算主管課	義務教育課	
	事業概要	県独自のCBTシステムの機能強化等により、児童生徒の英語コミュニケーション能力の強化を図る。							始期			
6	年度	K P I	英検3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合									
			KPI種別	上がるの良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
				R 4 年度	目標値	50 %	目標値	52.5 %	目標値	55 %	目標値	57.5 %
			実績値	47.6 %	実績値	%	実績値	49 %	実績値	%	実績値	%
			ストック/フロー	フロー	達成率	%	達成率	93.3 %	達成率	%	達成率	%
	コスト	最終見積 予算額	千円	最終見積 予算額	20,938 千円	最終見積 予算額	千円	最終見積 予算額	千円			
		決算額	千円	決算額	14,471 千円	決算額	千円	決算額	千円			
	要因分析	<p><b>要因</b> 対話型AIアプリ活用実証事業や英語学習成果確認テスト【E-ACT】、英語授業力強化研修会の実施により、前年度の48%から1ポイント増加したが、十分な習熟が図られなかった可能性があるため、目標達成とはならなかった。</p> <p><b>総括</b> 対話型AIアプリを活用した実証研究校の児童生徒は、E-ACT（話すこと）の結果から、「話す力」が向上したと考えられる。今後は、対話型AI等を活用した英語教材を作成してEILSに搭載し、児童生徒が日常的に英会話に親しむ環境を整備するなど、将来の愛媛の発展を支えるグローバル人材を育成することを目的に、児童生徒の英語力向上と英語教師の授業力向上を図っていく。 なお、令和7年度より、児童生徒の英語コミュニケーション能力の強化を図るため、グローバル人材育成に向けた英語力強化事業を立ち上げた。</p>										
	見直し方向性											

7	当初	事項	えひめ版学力向上推進事業費							予算主管課	義務教育課		
	事業概要		県独自で開発したCBTシステムの更なる利活用や児童生徒の資質・能力の育成につながる授業改善を推進し、児童生徒の読解力の育成や授業の理解度の向上をはじめとする本県の学びの課題を克服する。							始期	2021		
										終期			
	K P I		授業でICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合										
			KPI種別	上がるの良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
				R 4 年 度	目標値	%	目標値	70.2 %	目標値	71.2 %	目標値	72.2 %	
			実績値	%	実績値	%	実績値	64.4 %	実績値	%	実績値	%	
			ストップ/フロー	フロー	達成率	%	達成率	91.7 %	達成率	%	達成率	%	
			コスト	最終現計 予算額	49,391 千円	最終現計 予算額	45,836 千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円		
	最終現計 決算額	48,684 千円	最終現計 決算額	44,740 千円	最終現計 決算額	千円	最終現計 決算額	千円					
6 年 度	要因分析	<p><u>要因</u> 3年度に開発した県独自のCBTシステムを県内の全公立小中学校で日々の小テストやドリルにおいて活用することで、児童生徒の「個別最適な学び」の実現と教員の業務負担軽減に一定の成果を上げることができたものの、ICTを効果的に活用した授業改善に関する理解が十分に広がっていないため、目標達成には至らなかった。</p> <p><u>総括</u></p>											
	見直し方向性	維持	6年度の目標達成率は、想定よりも低調であったものの、9割を超えており、今後更に研修等を通じて全県で取組を推進し、授業改善を図ることにより、7年度以降にKPIは目標達成すると考えられることから、7年度の執行方法や8年度予算の見直しは想定していない。										